

## 寄贈図書リスト

元素生活 完全版～Wonderful Life with the Elements,

寄藤文平著, A5変形判, 216ページ, 1,400円+税, 化学同人

## 月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp) 宛。

なお、原稿も必ずFaxで0422-31-5487までお送りください。

## 人事公募

標準書式: なるべく、以下の項目に従ってご投稿ください。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

## 福岡大学理学部物理科学科准教授または講師

1. 准教授または講師1名
2. (1) 福岡大学理学部物理科学科  
(2) 福岡市城南区七隈8-19-1
3. 宇宙物理学
4. 宇宙に関する観測・実験を専門とする方で、独立して研究室を運営する。物理科学科および大学院応用物理学専攻の学生・大学院生に対する専門教育(本学科にて量子力学、熱・統計力学等を担当予定)、工学部・薬学部・医学部などの学生に対する物理学の基礎教育を担当する。文系学部の学生に対する物理学の教養教育も担当できる方が望ましい。
5. (1) 2018年4月1日 (2) なし
6. 博士号を有し、本学における研究教育に熱意のある方。
7. (1) 履歴書 (写真貼付)  
(2) これまでの研究と教育の概要 (A4用紙2枚程度)  
(3) 研究業績一覧: 査読付き原著論文, 査読付きの国際会議プロシーディングス著書, 競争的資金, その他の区別がわかるように記載。  
(4) 教育業績一覧  
(5) 主要論文の別刷5編程度 (被引用回数を記す)

- (6) 今後の研究計画と抱負 (A4用紙2枚以内)
- (7) 今後の教育活動の抱負 (A4用紙2枚以内)
- (8) 照会可能な方2名の氏名, 所属, 連絡先
- (9) 応募票 (様式は <http://www.sci.fukuoka-u.ac.jp/phys/koubo.html> を参照)

8. 2017年7月31日(月) 必着
9. 書類提出先: 〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1  
福岡大学理学部物理科学科 教授  
香野淳

問合せ先: 理学部物理科学科 教授 香野淳  
TEL/FAX: 092-871-6631/092-865-6030

e-mail: [kohno@fukuoka-u.ac.jp](mailto:kohno@fukuoka-u.ac.jp)

10. 封筒に「教員応募書類在中」と朱書きのうえ、簡易書留等で送付。応募書類(1)～(8)のPDFファイル, (9)のExcelファイルをCDあるいはDVDに保存して、書類と同封して送付。応募書類不返却。書類選考の後、口頭発表・質疑と面接による選考を予定しています。

## LLP 京都虹光房組合員

1. 組合員・若干名
2. (1) 特になし  
(2) 京都市
3. 天文学, 観測装置開発, 天文教育および天文学関連分野
4. LLP 京都虹光房は、天文学を専門とした研究者の新たなキャリア領域を拓くことを目指した事業組合です。組合員個々の専門性を活かし、天文学や光に関わる技術・製品, 教育サービスを提供する事業を展開しています。京都虹光房の理念を共有し、共に新しい事業を創造する組合員を募集します。LLP 京都虹光房の事業内容等の詳細については、Webページ (<http://www.kyoto-nijikoubou.com>) をご覧ください。
5. (1) 2018年4月1日 (もしくは決定後できるだけ)

早い時期)

(2) 任期なし。

6. 理学, 工学, 教育学など, 天文学およびその関連分野において, 修士もしくは博士の学位を有する者, もしくは採用時までに修了見込みの者
7. (1) 履歴書 (写真貼付) (2) 研究教育業績書 (任意書式) (3) 主要な業績について, 論文, 学会発表資料等のコピー (5編程度まで) (4) 自己アピール書 (「自身のこれまでの研究実績とそこから得られた技能・技術, および現在の興味」, 「それらの技能や技術を活かして自身が進めたい天文学ビジネスのアイデア, 目標」を含めて A4 1~2枚程度にまとめてください)
8. 2017年7月31日 (必着)
9. (1) 〒606-0003 京都市左京区岩倉南大鷲町17-203  
LLP京都虹光房組合員募集係  
(2) LLP京都虹光房組合員募集係  
e-mail: jinji@kyoto-nijikoubou.com
10. 封筒の表に「組合員応募書類」と明記してください。原則として応募書類は返却いたしません。
11. 本公募は, 雇用契約ではありません。採用の場合は組合員契約を締結し, 既定額の出資 (5万円) が必要になります。組合員契約から最大で3年間は, 毎月定額の分配金 (修士: 22万円, 博士: 30万円) と家賃補助を受け取ることができます。3年目以降は, 担当したプロジェクトで得た利益に対して弊社規程の貢献度を加味した額の分配金を配分します。詳細については, 直接お問い合わせください。

## 人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

### LLP 京都虹光房組合員

1. 2016年6月 (第109巻6号)
2. 該当なし

### 名古屋大学大学院理学研究科助教 (テニユアトラック教員)

1. 2017年1月 (第110巻1号)
2. 國生拓摩 (名大博士後期課程3年)
3. 2017年4月1日

### 東京大学大学院新領域創成科学研究科・基盤科学研究系・複雑理工学専攻講師

1. 2017年1月 (第110巻1号)
2. 吉岡和夫 (東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻助教)
3. 2017年5月1日

## 賞の推薦

### 第34回 (2017年度) 井上學術賞推薦要項

1. 概要: 自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を上げた研究者で, 2017年9月20日現在の年齢が50歳未満の者に対し, 井上學術賞 (賞状および金メダル, 副賞200万円) を贈呈します。
2. 募集方法: 指定の関係38学会, および井上科学振興財団の選考委員経験者, 受賞後5年を経過した井上學術賞受賞者等からの推薦。
3. 日本天文学会からの推薦件数: 2件以内
4. 推薦締切日: 2017年8月25 (月) 日本天文学会 jimucho@asj.or.jp宛に必着。
5. <http://www.inoue-zaidan.or.jp/f-01.html> からダウンロードした推薦書に必要事項を記入のうえ, メール添付ファイルとして, jimucho@asj.or.jp宛てお送りください。メールの件名は, 「第34回井上學術賞応募 氏名」としてください。なお, 井上學術賞, 募集要項, 推薦書等の詳細は, 上記のURLを参照くださるようお願いいたします。

### 第34回 (2017年度) 井上研究奨励賞推薦要項

井上研究奨励賞 (Inoue Research Award for Young Scientists) の贈呈。

理学, 医学, 薬学, 工学, 農学等の分野で過去3年の間に博士の学位を取得した37歳未満の研究者で, 優れた博士論文を提出した若手研究者に対し井上研究奨励賞 (賞状・メダルおよび副賞50万円) を贈呈します。  
※2017年9月20日井上科学振興財団必着

### 第10回 (2018年度) 井上リサーチアワード募集要項

井上リサーチアワード (Inoue Science Research Award) の贈呈。

自然科学の基礎的研究で優れた業績をあげ、更に開拓的發展を目指す若手研究者の独創性と自立を支援することを目的とします。

自然科学の基礎的研究で博士の学位取得後9年未満のわが国の国公立大学および大学共同利用機関に所属（予定を含む）する研究者で、これまでの成果を踏まえ、単独でまたは共同研究者の協力を得て行う将来性豊かな研究者に対し井上リサーチアワード（賞状および研究助成金一人当たり500万円）を贈呈します。  
※2017年7月31日 井上科学振興財団必着

井上研究奨励・井上リサーチアワード推薦についての詳細は下記URLをご参照ください。

<http://www.inoue-zaidan.or.jp/>

## 平成29年度の島津賞（功労者表彰）の推薦依頼

今年度より、日本天文学会も推薦依頼団体として島津科学技術振興財団から認定されることとなりました。

1. 表彰の対象  
科学技術、主として科学計測にかかわる領域で、基礎的研究および応用・実用化研究において著しい成果を上げた功労者。
2. 表彰の内容  
賞状、賞牌、副賞賞金500万円を贈呈します。
3. 本年度の表彰件数は 1件
4. 応募について  
応募は、日本天文学会からの推薦によります。また応募推薦書は2年間有効となります。
5. 学会締め切り  
平成29年9月4日（月）
6. 詳しくは<http://www.shimadzu.co.jp/ssf/>をご参照くださるようお願いいたします。

## 研究助成

### 平成29年度島津科学技術振興財団研究開発助成の募集

1. 助成の対象  
科学技術、主として科学計測に係る領域で、基礎的研究を対象とします。
2. 応募の資格  
原則として国内の研究機関に所属する45歳以下の新進気鋭の研究者。国籍は問いません。

3. 助成の金額  
1件につき100万円以下、助成総額：2,000万円
4. 応募について  
応募は下記のURLを参照してください。  
<http://www.shimadzu.co.jp/ssf/h29bosyu.html>
5. 応募締切  
平成29年9月30日 島津科学技術振興財団必着

### 公益財団法人住友財団2017年度2件の研究助成

- ①2017年度基礎科学研究助成  
(1件当たりの助成額 最大500万円)
- ②2017年度環境研究助成  
(1件当たりの助成額 最大500万円)  
詳細は、2件とも下記のURLをご参照くださるようお願いいたします。  
<http://www.sumitomo.or.jp/>  
募集期間：2017年4月15日（金）～6月30日（金） 郵送書類の締切  
(ただし、6月8日（木）までにデータ送信のうえ、受付番号を取得することが必要。)  
応募方法：財団ホームページ (<http://www.sumitomo.or.jp/>) から申請書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、郵送でお送りください。

## 研究会・集会案内

### 第26回公開セミナー「天文学の最前線」 宇宙における爆発・衝突現象

名古屋大学と名古屋市科学館では毎年夏休みの時期に、第一線で活躍する天文学研究者を集め、一般向けのわかりやすい講演会と体験型研究室紹介を開催しております。26回目の今年はテーマを「宇宙における爆発・衝突現象」とし、超新星爆発やガンマ線バースト、銀河同士の衝突など宇宙に普遍的に見られる過激な現象を取り上げて紹介します。

日 時：平成29年8月28日（月）-30日（水）  
会 場：

- 28日：名古屋大学 坂田・平田ホール（理学南館）  
29日：名古屋市科学館 サイエンスホール、プラネタリウムドーム（ブラザーアース）  
30日：名古屋大学 野依記念学術交流館

主 催：名古屋大学大学院理学研究科、宇宙地球環境研究所、名古屋市科学館

内容：講演会(28, 29日), 体験型研究室紹介(30日)  
対象：高校生以上

定員：300名(応募多数の場合は学生・教員を優先に抽選, 体験型研究室紹介は定員100名)

資料代：500円(高校生・大学生・大学院生), 2,000円(教員・一般)

問合せ先：名古屋大学大学院理学研究科CR研  
山岡和貴

Tel: 052-789-4333

e-mail: nagoya.koukai.seminar@gmail.com

締切：平成29年7月14日(金)必着

申込方法：インターネット, もしくは往復はがきでお申込みください。

○インターネット：公開セミナーホームページ

<http://www.ncsm.city.nagoya.jp/study/astro/seminar>

○往復はがき：「返信面の裏面」に催し名「公開セミナー」, 住所, 氏名(ふりがな), 高校生・大学生・大学院生・教員・一般の区分(一般以外は学校名), 体験型研究室紹介参加希望の有無を, 「返信面の表面」に参加者の住所と氏名(返信面の裏面には何も記入しないでください)を記入のうえに, 下記の住所までお送りください。

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番1号

名古屋市科学館学芸課天文係「公開セミナー」係  
(申込時の情報は, 主催者開催のセミナー等の案内以外には使用しません)

高校・大学でまとめて参加を希望される場合には, 名古屋市科学館天文係持田までお問い合わせください。

Tel: 052-201-4486 (代)

## 会務案内

### 日本天文学会 2017 年春季年会報告

2017年春季年会は, 3月15日(水)から18日(土)の4日間, 九州大学伊都キャンパス(福岡市)にて口頭講演会場9, ポスター会場1を使って開催された。講演件数は口頭講演が458件, ポスター講演が194件で, 合計652件の講演があった。年会参加者は891名であった。これに加えジュニアセッションの参加者が約400名あった。また, 以下に報告するように, 通常セッションに加え教育フォーラム, 特別セッション2件, 企画セッション1件も開催された。開催地理事の町田正博氏や九州大学の皆さんのご尽力により, 順調に進行した。

座長は次頁の54名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し, 感謝の意を表す。(敬称略)

〈記者会見〉

日本天文学会春季年会記者会見は, 年会の前日, 3月14日(火)14:00から九州大学理学部大会議室にて行われた。半田副会長からの挨拶(市川会長を代行), 日本天文学会の組織と活動の概要, 今回の春季年会概要, 公開講演会, 特別セッション, 天文教育フォーラム, ジュニアセッション等を紹介した後, 年会研究講演から2件について発表を行った。報道機関2社(朝日新聞, NHK)の参加があった。

以下の研究発表2件とジュニアセッションや公開講演会を含む全体を通しての紹介が朝日新聞に, 以下の研究発表1)と懇親会の紹介が読売新聞に掲載されたこと, NHKおよびRKB今日感テレビで関連のニュースが放送されたことが確認できている。

記者発表された年会研究講演:

- 1) 「超巨大ブラックホールのそばに新種の分子ガス雲を発見—体重が増えると, 出生率は上がる!」  
古屋玲(徳島大学), 谷口義明(放送大学)  
関連講演番号: P141a
- 2) 「ダスト放射で探るマゼラニックシステムのガスの起源」  
福井康雄(名古屋大学), 立原研悟(名古屋大学), 古賀真沙子(名古屋大学), 岡本竜治(名古屋大学), 山本宏昭(名古屋大学), 佐野栄俊(名古屋大学), 林克洋(名古屋大学), 早川貴敬(名古屋大学)  
関連講演番号: Q011a

(半田利弘)

〈特別セッション〉

【PASJ論文執筆セミナー—これであなたもPASJに投稿したくなる—】

この特別セッションは, 学会員からのPASJへの投稿を増やすことを目的として, 2017年3月15日(水)の15:15-16:15にA会場で開催された。まず, 若手の研究者を念頭に置き, 論文執筆の指導経験の豊富な理化学研究所の牧島一夫さんに, 科学論文のための英語の基本とレフェリーコメントを受けた改訂の仕方についてお話ししていただいた。いずれもすぐに役に立つ実践的な内容であり, 若手に限らず参考になったものと思う。つづいて, PASJ編集委員の一人であり, 多くの論文をPASJに発表している東京大学の戸谷友則さんに, PASJに投稿する意義を話していただいた。一学会員として, PASJをどう位置づけ, 盛り上げていくべきかについて, 笑いを取りながらたいへん説得力のあるお話をされた。最後に, 編集長の嶋作一大(東京大学)がPASJの魅力を紹介した。幸いなことに本セッションは多くの方に関心をもっていただけたようで, 200名を超える参加者で会場はほぼ満席となっ

	3月15日(水)	3月16日(木)		3月17日(金)		3月18日(土)
	13:00-15:00	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30
A会場	銀河核 坪井昌人 (JAXA)	銀河核 松原英雄 (JAXA)	銀河核 和田桂一 (鹿児島大学)	超新星残骸 馬場彩 (東京大学)	超新星残骸 山崎了 (青山学院大学)	超新星残骸 福井康雄 (名古屋大学)
B会場	星・惑星 長沢真樹子 (久留米大学)	星・惑星 奥住聡 (東京工業大学)	星・惑星 小林浩 (名古屋大学)	星・惑星/恒星 川端弘治 (広島大学)	恒星 高田将郎 (東京大学)	恒星 坪井陽子 (中央大学)
C会場	銀河 小麥真也 (工学院大学)	銀河 金田英宏 (名古屋大学)	太陽 成影典之 (国立天文台)	太陽 今田晋亮 (名古屋大学)	太陽 堀田英之 (千葉大学)	太陽 下条圭美 (国立天文台)
D会場	星間現象 川中宣太 (京都大学)	星間現象 中島拓 (名古屋大学)	星間現象 内田裕之 (京都大学)	星間現象 半田利弘 (鹿児島大学)	星間現象 田中邦彦 (慶應義塾大学)	太陽系 小久保英一郎 (国立天文台)
E会場	銀河団 北山哲 (東邦大学)	銀河団 中島真也 (JAXA)	観測機器 伊藤洋一 (兵庫県立大学)	観測機器 杉本正弘 (国立天文台)	観測機器 秋山正幸 (東北大学)	観測機器 渡邊誠 (岡山理科大学)
F会場	コンパクト天体 三原建弘 (理化学研究所)	コンパクト天体/教育・他 田中幹人 (東北大学)	教育・他 山岡均 (国立天文台)	銀河形成 長谷川賢二 (名古屋大学)	銀河形成 廿日出文洋 (東京大学)	銀河形成 小野宜昭 (東京大学)
G会場	超新星爆発 諏訪雄大 (京都大学)	超新星爆発 富永望 (甲南大学)	星・惑星 高橋智子 (国立天文台)	星・惑星 元木業人 (山口大学)	星・惑星 富阪幸治 (国立天文台)	星・惑星 阪本成一 (国立天文台)
H会場	宇宙論 日影千秋 (東京大学)	宇宙論 荒木田英禎 (日本大学)	コンパクト天体 根來均 (日本大学)	コンパクト天体 高橋弘充 (広島大学)	コンパクト天体 小島康史 (広島大学)	コンパクト天体 岡崎敦男 (北海学園大学)
I会場	観測機器 村上弘志 (東北学院大学)	観測機器 山田真也 (首都大学東京)	観測機器 富田洋 (JAXA)	観測機器 大島泰 (国立天文台)	観測機器 遠藤光 (Delft University of Technology)	観測機器 藤沢健太 (山口大学)

た。本セッションがPASJの発展の一つのきっかけになることを期待している。

(嶋作一大)

#### 【X線天文衛星計画の概要―「ひとみ」と「X線天文衛星代替機」】

特別セッション「X線天文衛星計画の概要」は、2017年3月18日(土)13:30-14:30にA会場で開催された。これは、姿勢制御にかかわる事故によって初期観測中の3月26日に通信が途絶、運用を断念するに至ったX線天文衛星「ひとみ」の経緯と、その代替機計画について、関係者から報告をいただくことを目的に高エネルギー宇宙物理連絡会(高宇連)運営委員会が企画・提案したセッションである。

報告は、4人の講演者によって行われた。最初の講演者は、JAXA宇宙科学研究所プログラムディレクターにして、ASTRO-H「ひとみ」の現プロジェクトマネージャの久保田孝氏である。氏は「ASTRO-Hの

終了と得られた教訓について」と題し、「ひとみ」終了審査報告から初期成果から事故とその原因にわたる評価結果について報告した。特に教訓・知見としてまとめられた具体的な指摘は、今後のミッションにおける成功への指針として引き継がれるべきものである。

つづいて「ひとみ衛星初期観測の成果について」と題し初期観測成果と成果報告・論文執筆状況について、プロジェクトサイエンティストの大橋隆哉氏(首都大学東京)から報告があった。すでに*Nature*誌などに掲載された2報の論文をはじめ、今年会でも報告されているように、搭載された画期的な観測装置によって、短い観測期間にもかかわらずいくつかの注目すべき成果が上げられている。これらは、特に日本の若手が主導して進められていることが強調された。

そして現在、これらの画期的な観測を引き継ぐべく「X線天文衛星代替機」が提案されている。この代替機でめざすサイエンスについて、高宇連会長の田代(埼玉大学)から、また代替機計画の提案の経緯と準

備状況について、代替機プリプロジェクト準備チーム長の前島弘則氏（JAXA宇宙科学研究所）から報告があった。代替機は「ひとみ」で培った国際協力のもと、早期のサイエンスの回復を目指して、精力的に準備が進められている。

セッションが行われたのが、年会最終日の午後であったにもかかわらず、会場にはさまざまな分野から100名を超える参加者にきていただけた。時間ぎりぎりまで活発な質疑応答が行われ、X線天文衛星計画の現状と将来について情報共有するよい機会となった。

（田代信）

#### 〈企画セッション〉

##### 【超新星残骸の多波長観測と理論研究の展開】

世話人：福井康雄，山崎了，馬場彰，  
内田裕之，内山泰伸

超新星残骸は、銀河における宇宙線加速源や重元素汚染源として注目されており、ますますその重要性が増している。本セッションではこれらの課題にかかわる最新の研究成果を一堂に集め、観測と理論の両面から多波長研究を促進・議論する場を提供した。6時間のセッションは基調講演5件に加え、一般口頭講演12件、ポスター講演1件、さらに総合討論の時間で構成された。2日間で130名を超える研究者が参加する、極めて盛況な会となった。

基調講演は、超新星残骸研究において各分野を代表する若手研究者に依頼した。澤田真理氏（青山学院大学）は（主に熱的）X線観測、富永望氏（甲南大学）は超新星における元素合成、田中孝明氏（京都大学）は非熱的放射やガンマ線観測、佐野栄俊氏（名古屋大学）は電波観測、Shiu-Hang Lee氏（京都大学）は宇宙線の加速理論について、それぞれご講演いただいた。一般講演では、電波からガンマ線まで幅広い波長での観測結果が網羅され、また最新の理論研究の成果も発表された。最後の総合討論の時間では、超新星から超新星残骸までの時間発展をどのように理解するか、また、超新星残骸における粒子加速研究の今後の発展について、異なる分野の研究者間で活発な議論が交わされた。

（福井康雄）

#### 〈天文教育フォーラム〉

年会初日（3月15日）の16時半から18時まで、A会場において天文教育普及研究会との共催により天文教育フォーラムが開催された。今回のテーマは「ジュニアセッションのこれまでとこれから～20回記念に向けて」であり、会場には約90名の聴衆が集まった。

はじめに、天文学会ジュニアセッションの黎明期から企画・運営に携わってこられたJAXAの吉川真さんから、これまでジュニアセッションがたどってきた経緯と、現状における問題点についてご紹介があった。ジュニアセッションが生徒の目標となり、研究者と直接に接する機会となるという当初の目的を一定程度達成してきたこと、一方で規模が大きくなり過ぎている点やコンテスト形式となっていない点など、議論の余地があることが紹介された。

ついで、ジュニアセッションに参加したことのある立場として広島大学の内海洋輔さん、ジュニアセッションに生徒を送ってきた教員の立場として元洛東高校の西村昌能さんから、ジュニアセッションの意義と、運営についてのそれぞれのご意見を述べて頂いた。そして、他学会での取り組みとして、日本物理学会ジュニアセッションの運営委員を務められていらっしゃる青山学院大学の松川宏さんから物理学会ジュニアセッションについてご紹介頂くとともに、物理学会で議論されている問題点等について情報提供していただいた。

最後に会場も巻き込んだのオープンディスカッションが行われた。多くの生徒に研究者と議論してもらいたい一方で、門戸を狭めなければ一組当たりの発表時間がどんどん短くなるというジレンマについて意見交換がなされた。そのほかにも、コンテスト形式や査読の是非、生徒へのフィードバックの難しさ、研究者側のかかわり方などについて、今後議論が必要となる論点が提示された。議論の内容は次期ジュニアセッション実行委員に引き継がれ、20回の節目を迎える来年度以降、さらに意義あるジュニアセッション運営に役立てられるものと期待される。

（鴈野重之）

#### 〈研究奨励賞・林忠四郎賞受賞記念講演〉

年会3日目の3月17日16:45から、2016年度研究奨励賞・林忠四郎賞受賞記念講演が行われた。講演者およびタイトルは以下のとおりである。

##### 研究奨励賞受賞記念講演

滝脇知也氏（国立天文台）

「3次元シミュレーションによる重力崩壊型超新星の爆発機構の解明」

秦和弘氏（国立天文台）

「高解像度電波観測による活動銀河ジェットの研究」

##### 林忠四郎賞受賞記念講演

住 貴宏氏（大阪大学）

「重力マイクロレンズを用いた系外惑星の研究」

## 〈懇親会〉

年会2日目に当たる3月16日(木) 18時半より、川端商店街で懇親会が開催された。一般213名、学生135名、IAU関連などの招待者が20名の合計368名の参加があった。18時20分より福岡大学和太鼓サークルによる和太鼓の演奏が始まり、その後特設ステージで町田正博年会開催地理事による乾杯があった。続いて貞刈厚仁副市長、半田利弘天文学会副会長と柴田一成氏にご挨拶いただいた。こちらのお3方には事前に依頼し、甲冑を着用していただいた。ステージ付近では福岡発祥の古武術の演武や、ジャズのミニライブが行われた。また、会場の奥では天文学会員の縣秀彦さん、小野智子さん、吉川真さん、山岡均さんらによる商店街通行人向けのサイエンスパーが催され、好評だった。今回は商店街での開催ということで、参加者には懇親会パスが配布され、そのパスを提示することで、懇親会協力店から料理や飲み物を受け取る形式にした。会場両端のドリンクブースには福岡の地酒や地ビール、ワインが用意された。また、商店街の協力店より博多ラーメン、餃子、たこ焼き、ぜんざいなどが提供された。20時20分ごろより次期年会開催地理事の徂徠和夫氏の挨拶があり、川端商店街会長による挨拶と博多手一本で閉会となった。今回の懇親会は福岡市と商店街主催の川端夜祭と同時開催だった。川端夜祭では、天文に関連した博多人形カプセルトイの販売もあった。市と商店街には多大なご協力をいただいた。

(町田正博、大槻かおり)

## 〈保育室〉

九州大学・伊都キャンパス内の講義室にて保育室を開設した。6家族9名の利用があった。準備にあたり、九州大学のスタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する。

(中道晶香、石川遼子)

## 〈ジュニアセッション〉

第19回ジュニアセッションが日本天文学会の主催、天文教育普及研究会、高校生天体観測ネットワークの共催、日本学術会議の後援で、日本天文学会2017年春季年会最終日の3月18日、九州大学伊都キャンパス椎木講堂を会場として行われた。口頭とポスターでの発表が40件、ポスターのみの発表が42件、合計82件の発表が行われた。この中に、タイからの高校生6名による発表も含まれている。

なお、第19回ジュニアセッションの予稿集がジュニアセッションのHPから見る事ができる。

<http://www.asj.or.jp/jsession/2017haru/program.html>

2000年春に17件の発表から始まったジュニアセッションも、毎年、発表件数が増加し、今回は、九州大学での開催にもかかわらず、82件の発表申込があった。

ジュニアセッションの口頭発表会場への参加者は、生徒や引率の教員など300人、および、学会参加者など、合計400人であった。口頭発表は、六つの分野で行われた。午前中は、「タイセッション」6件とポスターの「ショートプレゼンテーション」、午後は、「太陽系天体」7件、「恒星・系外惑星」8件、「星雲・星団・銀河」7件、「位置天文・宇宙開発」6件、「星空間環境・装置開発」6件の口頭発表があった。

座長は、午前中は林左絵子氏(国立天文台ハワイ観測所)、午後は、中西裕之氏(鹿児島大学)、島ノ江純氏(八女学院高等学校・中学校)に務めていただいた。今回、ポスターセッションでは、ジュニアセッションのポスターを研究者のポスターの間に並べる試みをした。多くの研究者が、ポスターセッションの時間に、ジュニアセッションのポスターの前で直接交流していただけたと考える。

これらすべての催しに対し、開催地理事の町田正博氏、年会実行理事の佐藤文衛氏、および、運営に携わった学会関係者、ジュニアセッション実行委員、ジュニアセッション世話人の皆さんをはじめ、多くの方々に多大なご協力をいただいたことに、改めて感謝の意を表したい。来年は、ジュニアセッションも20回目になり、新しい節目を迎えることになる。今後の運営にもご配慮のほど、よろしく願いたい。

(大西浩次)

## 〈公開講演会〉

3月19日(日)の13時30分-16時30分に公開講演会を開催した。今回の公開講演会は福岡市の中心街である天神地区のエルガーラホール8階大ホールを会場とし、福岡市の後援を得て開催された。晴天にも恵まれ、当日はおよそ定員300名に対して280名を超える聴衆が来場し、開演2時間前から行列ができて始めるほどの盛況ぶりであった。

今回はテーマを「アニメ・SF・天文学」とし、一般市民を対象に、天文学者/漫画家/クリエイターが宇宙と宇宙を題材とした文化的創作活動について語るという趣旨であった。講演会の前半は著名なクリエイターの方々や天文学者による講演を行った。登壇者とテーマは以下のとおりである

・竹宮恵子氏(京都精華大学学長・漫画家)

「マンガの見る未来はどこまで現実と一致するか?」

・出渕裕氏(アニメーション監督・脚本・デザイナー)

「いまそこにある宇宙 ～アニメーションにおける宇宙観の変遷～」

・半田利弘氏（鹿児島大学教授・天文学会副会長・天文学者）

「天文学者が見る夢はどこまで実現したか？」

後半は山岡均氏（国立天文台広報室長・天文学会理事・天文学者）を司会としてパネルディスカッションを行った。講演とディスカッションを通して、普段なかなか聞くことのできないサイエンスフィクション作品の創作過程や、その中で科学がどのような役割を果たしているかなどが披露された。また、パネルディスカッションでは来場者からの質問に登壇者が応じる形で会場の一般市民も加わり、天文学研究の最新成果も交えて活発な議論が行われた。全体を通して、天文学の市民への浸透という本講演会の目的が十分達せられたものと思われる。

（町田正博，鴈野重之）

#### 〈進路相談コーナー〉

日本天文学会のキャリア支援委員会は天文学および関連する多様な分野において、若手研究者が活躍できる場の開拓と確保を目指している。そのための企画の一つとして、年會会場に、天文学で学位を取った後、研究所や大学などの狭い意味のアカデミアではない場所で活躍している先輩たちと直接話をしてもらうことで自分の将来のキャリアに関する視野を広げてもらう「進路相談コーナー」を設けている。

今回で3回目となり、過去の意見を基に、tennetであらかじめアドバイザーの名前と在学中の研究や就職後の仕事の内容をお知らせしておいた。また場所の選定、当日の案内などをより良いものにするなど、相談に来やすい環境作り工夫をした。3月16日、17日の2日間、11時30分から2時間、ポスター会場の一角にコーナーを設置した。アドバイザーは天文出身の修士と博士修了の4名（企業2名、科学館職員2名）であった。相談者は延べ15名で、企業への相談が12名と、偏りが大きかった。アンケートをお願いしたところ、今回もアドバイザーや相談者からも好評で、次の開催に当たって多くの助言をいただいた。アドバイザー候補者を探すことが今後の重要な課題だが、キャリア支援委員会では今後も毎回、年會会場に「進路相談コーナー」を設置していく。またアドバイザーによる天文月報への記事を掲載し、情報の提供も続けていきたい。

（市川隆）

（年會実行委員長：佐藤文衛）

## 「PASJ：投稿の手引き」第2版の公開

欧文研究報告（PASJ）では、1990年に発行しました「PASJ：投稿の手引き」を大幅に改訂して第2版を作成し、以下のWEBサイトにて公開しています。

[http://pasj.asj.or.jp/doc/author\\_guidelines.html](http://pasj.asj.or.jp/doc/author_guidelines.html)

第2版では、現在の執筆スタイルに即した内容に執筆修正し、これまで独立していたLaTeXによる執筆手引きの内容も盛り込みました。また、論文の執筆経験が浅い方へ向けた執筆要領を新たに加えました。

これまでPASJへ投稿して下さったことがある方はもちろんのこと、よくご存じない方々にも読んでいただき、より一層、PASJに親しんでくださいますと幸いです。

皆さんにこの手引きをご活用いただくとともに、PASJへ論文をご投稿くださるのをお待ちしております。

（欧文研究報告編集顧問・編集委員会）

## 入会・移籍・退会のお知らせ

2017年3月15日に開催された公益社団法人日本天文学会理事会において、正式に入会・移籍が承認された方、退会が報告された方の人数をお知らせします。

**入会** 正会員：26名 準会員：9名 賛助会員：1名  
**移籍** なし  
**退会** 正会員：3名 準会員：1名

## 編集委員会より

### 退任の言葉

2期4年余りにわたって編集長を務めさせていただきました。さすがに4年以上となると「長かった」というのが感想です。この間、天文月報の枠組みをあえて変えることはせず、専ら紙面の充実に努めてきました。幸い、多数の投稿と特集の企画に支えられて多数の記事を掲載することができました。年會情報や会務報告等を掲載しなくなったにもかかわらず、ページ数はむしろ増えたかもしれません。若手の研究も多数紹介することができ、編集作業のなかでずいぶん勉強させていただきました。

最後に、長年お世話になった事務担当の山崎さんにご退職となりました。長年のご苦勞にこの場を借りて御礼申し上げます。新たに担当となる今井さんと、



1名増員となった新編集委員会の皆さんの手で、天文月報がさらに発展していくことを期待しています。

(青木和光)

右も左もわからないまま青木編集長とともに着任してはや4年ちょっと、長かったような短かったような編集委員の任期を無事勤め上げることができました(人間の体感時間は時間の対数関数らしいので次の4年はずっと短いでしょう)。お世話になった他の編集委員や編集係の皆様、また記事の依頼を引き受けてくださった多くの皆様に御礼申し上げます。一つ心残りはずばるHSCサーベイの特集号を組もうと思って結局組めなかったことですが、これは次の編集委員に託したいと思います。今後は一読者として天文月報を読むのを楽しみつつ何らかの形で貢献もしていきたいです。

(大栗真宗)

2期4年間月報編集委員を務めさせていただきました。編集委員を引き受けた際には4年間は長いだろうと思っていたのですが、あっという間でした。忙しい時期に編集校正が回ってくることもありたいへんなときもありましたが、逆に、そういう時に面白い記事を読むことで自分もちゃんとしなければ、と力が湧いてくることもありました。また、研究会での発表や毎年12月に行われる理論懇の博士発表を見て元気の良い若手に記事依頼をして、わかりやすくまとめられた原稿で楽しく勉強させていただいたのも良い思い出です。

一方で、2015年、2017年に自分でも記事を書きましたが、締切に遅れてしまいました(当時の月報事務局の山崎さん、出版社の方にはたいへんご迷惑をお掛けしました)。遅れる事情も非常によくわかるために、著者の方に原稿をあまり催促できず、編集委員として力不足だったと心残りもありますが、これからは読者として天文月報を楽しみたいと思います。4年間ありがとうございました。

(富永望)

右往左往している間に、あっという間に退任の挨拶を書く時期になってしまいました。一番の思い出は、「すざく」衛星の10周年特集号です。打上げ当初から運用関係者を困らせることの多い子でしたが、紆余曲折ののち、打上げ前には想定していなかった分野でも多くの成果を上げたことを紹介できたことをうれしく思います。「ひとみ」特集までたどり着けなかったの

だけが残念ですが、若い方々の最新の結果を中心としたたくさんの良い記事に巡り合えて幸せな在任期間でした。ありがとうございました。

(馬場彩)

4年間、天文月報編集委員を務めさせていただきました。ちょうどアルマ望遠鏡の成果が出始める時期でもありましたので、アルマ望遠鏡特集を2回企画し、その華々しいスタートダッシュを多くの方にお届けできたことが一番の貢献だったと思います。ご協力いただきました多くの執筆者の皆様に感謝申し上げます。

また、ふだん触れることが少ない他分野の記事を校正のために精読する機会をいただき、忙しい中ではありましたがこれ幸いと勉強させていただきました。今後はもう少し気楽な立場で、天文月報を楽しみたいと思います。これまでありがとうございました。

(平松正顕)

天文月報編集委員を4年と5カ月務めさせていただきました。最初は仕事の進め方がわからず少なからず困惑しましたが、青木編集長と天文学会月報係りの山崎さんのサポートにより何とか乗り切ることができました。天文学会年会や研究会などで興味深い研究を行っている方に執筆依頼をして原稿の校正をすることは、私の勉強にもなり非常に良い経験になりました。また、私は九州にいるためにあまり気軽に他分野の研究会には参加できないのですが、他分野の研究者の記事を読み、その内容を校正することは楽しい仕事でした。私の突然の依頼にもかかわらず素晴らしい記事を執筆していただいた皆様、急な校正に対応していただいた皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

(町田正博)

編集委員をお引き受けしてから、あっという間に4年が過ぎてしまいました。太陽系の担当者としてご推薦を受けて編集委員になったのに記事集めには大した貢献ができず、反省しております。編集委員の仕事を通じてさまざまな分野の記事を丁寧に読むことができ、個人的には非常に勉強させていただきました。Hyper Suprime-Camの大型サーベイでようやく太陽系小天体関係の研究結果が出始めたので(これを待ってたんです)、今後は一会員として記事に執筆に努めたいと思います。

(吉田二美)

## 天文月報記事投稿用アップローダー

<http://www.asj.or.jp/geppou-office/toukou/index.php>

### ■ログイン法

login: geppou    passwd: toukou

### ■アップロードの仕方

アップロード画面にいったまづ必要事項を埋めてください。

するとアップロードに進むことができます。ファイルが複数ある場合は「投稿フォームを増やす」ボタンを押してください。押すたびに欄が増えます。

1回あたり全部で最大50 Mbyteまで送信できます。(それ以上の巨大なファイルのアップロードは推奨されませんが、やむをえない場合は分割してお送りください)。

### ■注意

投稿者の個人の認証はcookieを利用しています。したがってcookieを受け取らないブラウザでは使えません。

またformのcheckや可変個数のアップロードボックスはjavascriptを利用していますのでjavascriptが使えなければこのuploaderは使えません。

その場合は従来どおり、[toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)までメールでご投稿ください。

### ■連絡先

アップローダーに関するテクニカルなご質問は  
[youtsumi@hiroshima-u.ac.jp](mailto:youtsumi@hiroshima-u.ac.jp)まで、  
またその他のご質問は[toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)まで  
お願いします。

(天文月報編集長)

## 天文月報記事ご執筆用テンプレート (SKYLIGHT, EUREKA, 天球儀)

ご執筆者のために日本天文学会HPに「投稿用Tex/MS Word テンプレート」をご用意いたしました。

<http://www.asj.or.jp/geppou/yoko/template.html>

texで執筆される方はtex/あるいは文字コードに応じてu\_Tex2/, MSWordで執筆される方はword/をご利用下さい。詳しくは各readmeをお読み下さい。

## 訃 報

会員の船田工氏は2016年10月2日にご逝去されました。満83歳でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

会員の磯部重光氏は2017年4月6日にご逝去されました。満84歳でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード (5桁の数字と) **vol98** (5文字) の計10文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

青木和光(編集長), 上野悟, 大栗真宗, 奥村真一郎, 富永望, 萩原喜昭, 馬場彩, 平松正顕, 町田正博, 諸隈智貴, 吉田二美

平成29年5月20日

発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行

印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8

株式会社 国際文献社

定価720円(本体667円)

発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会2017年(本誌掲載記事は無断転載を禁じます)